

公開セミナー「『知』の十字路」

原 武 史

明治学院大学国際学部付属研究所は、2008 年度、2009 年度に引き続き、2010 年度もまた学生や一般市民を対象とする無料の公開セミナーを開催した。全体のタイトルは「『知』の十字路」で、前年度に行われた「『知』の現場から」を踏襲している。まずは番外編も含めて 11 回にわたって行われたこの公開セミナーの対談者とテーマを掲げよう。

- | | | | |
|-----|------------------|----------------|-------------------|
| 1. | 2010 年 10 月 5 日 | 佐野 眞一 × 原 武史 | 歴史の尻尾を手繰りよせる |
| 2. | 2010 年 10 月 12 日 | 佐藤 優 × 原 武史 | なぜ学ばなければならないか |
| 3. | 2010 年 10 月 19 日 | 辻井 喬 × 原 武史 | 思想がつくるものと企業がつくるもの |
| 4. | 2010 年 10 月 26 日 | 林 真理子 × 原 武史 | 皇室のこれから |
| 5. | 2010 年 11 月 9 日 | 東 浩紀 × 高橋 源一郎 | 言葉で人を動かす |
| 6. | 2010 年 11 月 16 日 | 赤坂 真理 × 原 武史 | 自分の中の近現代史 |
| 7. | 2010 年 11 月 26 日 | 奥泉 光 × 原 武史 | 小説と経験 |
| 8. | 2010 年 11 月 30 日 | 大澤 真幸 × 永澤 佳祐 | 「自由」を改めて問い直す |
| 9. | 2010 年 12 月 7 日 | 井上 章一 × 竹尾 茂樹 | 真実の追求は徹底的に |
| 10. | 2010 年 12 月 14 日 | 小熊 英二 × 高橋 源一郎 | 歴史認識をひらく知見 |
| 11. | 2011 年 1 月 7 日 | 中川家 礼二 × 原 武史 | 【番外編】鉄道漫談 |

今回は初めての試みとして、本学教員のほかに卒業生を対談者に指名した。2011 年に本学部を卒業した永澤佳祐氏だ。永澤氏は教員顔負けの周到な準備で臨み、見事大役を果たした。

2008 年度、2009 年度に続いて、今年度も河出書房新社による全面的な協力のもと、2011 年 5 月に「『知』の十字路」として刊行することができたのは慶びにたえない。ただ、林真理子氏は収録を拒否されたため、単行本には 4 回目だけが抜け落ちている。話題が皇室の微妙な問題に及んだため、活字にするのを避けられたからではないかと思われる。

カルチャーセンターの教養講座であれば、すでにわかっている知識を一般市民にわかりやすく伝えるだけでよいかもしれない。しかし、公開セミナーはそういうものではない。既成の学問によっては解答を与えられていない諸問題について、いま最先端で活躍する学者や作家、批評家などを招いてともに考えようとするものである。前年度の「『知』の現場から」の「現場」には、そのような場を学生や一般市民とともに共有したいという思いが込められていたとすれば、今年度の「『知』の十字路」の「十字路」には、ゲストとの対談や質疑応答を通して「知」が交錯しあう中から、解答への道筋が見えてくるのではないかという思いが込められている。

『研究所年報』第13号所収の「公開セミナー『「知」の現場から』」でも書いたことだが、国際学部は学際学部である。それは、法学部や経済学部のような、特定の分野を専門とする学者だけが集まる学部とは一線を画し、既成の学問の壁を取り払って様々な「知」が相互乗り入れするような学部を目指すということでもある。公開セミナーの趣旨が、本学部の理念とも矛盾しないと考えるゆえんである。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、高齢者が多く住む東北地方から茨城県にかけての沿岸部が甚大な被害を受けた。被災地では、ネットよりはむしろ手書きの掲示板が活躍し、人と人とが対面しあい、相手の表情を見ながら対話することによってしか痛みを分かちあえないことが、しだいに明らかになっていった。

だからこそ、対談者と同じ空間に居合わせ、対談者の表情を目のあたりにし、次の瞬間に対談者が発する言葉に注意深く耳を傾け、その言葉の意味を居合わせた人々とともに考え、時にはその言葉に興奮し、大声で笑い、あるいは反発し、直接本人に質問をぶつけることもできる公開セミナーは、高齢化の進む地域における大学のあり方を考える上でも貴重な機会とならないだろうか。今回もまた、聴衆の多くは60代～70代の高齢者であった。明治学院大学国際学部は、学際学部であるばかりか、年齢の壁をも取り外し、学ぶ意欲のある方であれば基本的に誰でもキャンパスに来られる「人際学部」にならなければならないと感じたしだいである。

